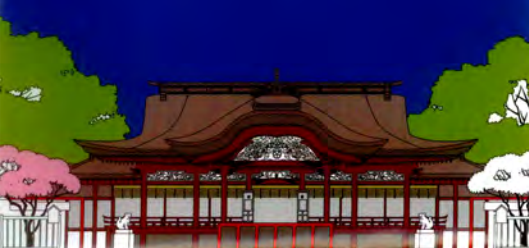




# 太宰府天満宮



## 受験合格祈願・学業上達祈願の申込みご案内

お申し込みいただきましたら、御礼・御守をお送りし、当宮御本殿にて1年間の祈願祭を執行いたします。

初穂料 5,000円 [別途送料140円(送料先が依頼者と異なる場合は220円)、複数依頼の場合は、ご連絡下さい。]

(必要事項) ●お申し込み者の〒番号・住所・氏名・電話番号  
●本人(資格を受ける方)の〒番号・住所氏名(ふりがな)現在学年  
●祈願の種類(例:大学受験、国家試験、学業上達)  
●御礼・御守の送料先(申込者または本人をご指定ください)

(FAXによるお申し込みの場合)上記の必要事項を記入して、FAXでお申し込みください。お支払いは、御礼・御守のご送付時に同封いたします(ゆうちょ銀行の払込取扱票)をご利用の上、お納めください。

FAX番号 092-920-2525

(宛先:太宰府天満宮 学業係)

(郵送によるお申し込みの場合)上記の必要事項を記入して、現金書留にて郵送ください。

送付先:〒818-0195 太宰府市幸府4丁目7番1号 太宰府天満宮 学業係

(お問い合わせ先)上記に関するご質問・ご不明な点は、電話にてお問い合わせください。

TEL 092-922-8484 (太宰府天満宮 学業係)

## 無料ガイドサービスのご案内

太宰府天満宮では、ガイドによる案内サービスを実施しています。(料金:無料)2名からのグループで、どなたでもご利用いただけます。

利用時間 10時~16時(受付15時30分まで)

コース 総合案内所~本館まで30分~20分コース

利用対象 2名から30名程度までのグループ

受付方法 専用申込書をFAXで、お申し込みください。

※当日受付でも可ですが、予約を優先します。

※予約時間は厳守願います。

予約があっても、到着が15時30分を過ぎた場合は利用できません。

●お申し込み・お問い合わせ/太宰府天満宮ガイドサービスの会事務務局

TEL(092-922-8225 FAX 092-921-1010

上記申込書はホームページにございます。http://www.dazaifutenmangu.or.jp/



## 太宰府天満宮

〒818-0195 福岡県太宰府市幸府4丁目7番1号  
TEL (092) 922-8225 FAX (092) 921-1010  
http://www.dazaifutenmangu.or.jp/



一千年の  
緑のしずく。  
木々の緑をつたって、  
光が降りそそぐ。  
千年を生きぬいた大樹からも、  
萌えるような新緑からも、  
生命力の輝きが、  
ほとぼしっている。  
天神さまのやさしさが、  
あなたの上に、  
降りてくるように。

東風吹はに  
にはいよまよし梅も花  
あしどろしどろ  
夏月な忘れろ  
飛梅伝説  
太宰府天満宮へ出立の折、  
道真公が御前の梅に想いを  
残し、眺まれた稲穂です。  
本殿に向かおうと正面にある  
「飛梅」は、道真公を慕って飛  
から太宰府へ、夜にして飛ん  
で来たといわれています。「春  
全志れそ」の言葉どおり、  
今も春一番に白八重の花をつ  
けてくれます。

元年(901)、藤原時平のそ  
ん言より失脚、大宰権帥とし  
て都を追われ、大宰権帥とし  
て配所を移され、去られたのは一  
年後の五十九歳の時、門弟の  
味酒行行が延喜五年(905)  
基所に祠を建てたのが天満宮  
の始まりです。その頃、都で続  
く天変地異を道真公のたり  
と畏れた人々が、道真公を御  
霊として神格化するようにな  
りました。延喜十九年(919)  
には勅命により社殿が完成し、  
道真公の御神徳を追慕する  
庶民の間、天神信仰が広まり、  
太宰府は門前町として発展  
していききました。道真公の御  
墓所でもある現在の本殿は、  
享和二年(1812)、五十五歳で右  
大臣に就任しました有力氏  
以外の右大臣は吉備真備以  
来のこと、異例の昇進は藤  
原氏の強い反発を招き、延喜



夏まつり  
●7月24日 25日  
天神さま御生誕(旧暦6月15日)を  
お祝いするに共に、しもの巻  
やかな祭を願って、お祭り。  
手を束ねてくぐりながら、1本の  
の輪をくぐると、お守りや御札を贈ら  
うといわれます。

千燈明(せんとうみやう)  
●7月25日 9月25日  
心子能前辺に約千本のロウソク  
を燃燈して、御神意をお慰める  
祭です。水面に炎が揺れるさ  
まは幻想的です。9月は水上  
舞台にて神事が奉納されます。

神幸式大祭  
●9月25日  
福岡県歴史民俗文化財  
館(旧三年1100)大宰権帥大  
江江内房にまつて始められ、道真公  
の御神徳を仰ぎ、五穀豊稔を神  
明に感謝する秋の大祭です。天  
神さまの御神意を奉告し、御神  
輿より鎮座の地神行が奉告され  
ます。

七五三  
●11月15日  
七五三は、三歳の節、七歳、  
十三歳の時、それぞれ、七、五、  
三の数字が通じ、由来は十、五、  
三の結び、天をさまに、七、五、  
三、七、五、三の成長を祈ります。

秋思祭  
●旧暦9月10日  
月明りに照らされた太宰府政庁  
跡で、神輿を運行し、神楽を奉納  
します。ついで、清涼池で行われた  
重慶の節の夜更、道真公の秋  
思の詩歌を詠み、天皇から御  
衣を拝領された故事にちなんだ  
神事です。

初詣  
飛梅の影がはびらびらと舞う新暦、  
年賀のしめ縄、百万人の人々が、  
一年の幸せを願って、天神さまに手  
を合わせます。  
うそ誓え ●1月1日  
天神さまのお使いの鳥「そ」をかたどった  
木をそ、誓えましょう。替えましょうと  
唱えながら、「替門前広域交換し、新職  
の持ちこたえをした人は「純愛のうそ」  
と二年間幸運が  
降りるという、  
開き出世除災招  
福の神事です。  
神輿の金うそは  
合計十二体授与  
されます。

節分厄除祈願大祭  
●2月1日  
太宰府天満宮は古  
く「厄除け」の信仰  
があり、節分の水ま  
りや、豆まき、ま  
りやうたを踊ら  
て厄が晴れ、こま  
は、道真公の御  
徳に感謝する水の下  
で、厄除け厄除け祈  
願します。節分は豆  
まき神事も行われます。

赤参り(あかまゐり)  
●3月1日  
赤参りの赤い参籠を祈って、  
赤参りにお参りします。「学  
の神さまである道真公の御徳  
にあやうろうと道真公からもく  
の参拝者が訪れます。

曲水の宴  
●月曜・日曜日  
衣、舞、歌、酒、茶、平安の美  
事、まじり、十三、五、三の清  
水、まじり、十三、五、三の清  
に浮べられた茶が流れてくるま  
で、和歌を詠み、茶を飲みます  
歌の神事、茶会が奉告されるな  
か、平安宴が催されます。

学業祈願  
●4月20日 11月20日  
春秋二季に行われ、春には  
夏の御衣(白羽)の単衣、  
秋には冬の御衣(同じ)に奉  
ります。  
道真公の御神徳  
にやま、祈願祈願  
を祈ります。本殿上  
が、祈願祈願祈願  
書、御祈願祈願。

